

(3) テーマ3 「日本語教育関連の大学院生・研究生の受け入れ体制」

東京外国語大学の坂本恵氏、そして宇都宮大学の鎌田美千子氏から事例の提供があった。

【話題提供者①：坂本恵氏（東京外国語大学）】

① 大学院生の受け入れ

東京外国語大学では2015～6年度の改組があり、日本語教育関連の学生は、現在大学院総合国際学研究科国際日本専攻（「国際日本専攻」とする）で受け入れている。教員組織と教育組織は分かれており、留学生日本語教育センター教員を含む「日本」関係教員を一つの組織に集め、「日本学」の発信をする目的で設けられた「国際日本学研究院」が所属先となっている。

「国際日本専攻」は、「日本語教育学研究」のほか、「日本語学研究」、「日本語文学・文化研究」、「日本社会研究」を含む4領域があり、定員40名（その3分の2は日本語教育領域を選択）で構成されている。また、他専攻の学生に日本語教育関連授業を履修させ、一定の単位数で修了書授与する「キャリアプログラム日本語教育実践プログラム」があり、海外派遣事業参加学生が派遣先で日本語教育を少し担当できるような知識を得ることを目的としている。

② 研究生の受け入れ

申請は、グローバルアドミッションオフィスにおいて一元化されており、志願者はホームページでの教員の指導可能な分野や受け入れ条件等のリストを見て、受け入れ条件を確認しつつ自分の研究分野に合った適切な指導教員を選び、オフィスに申請し、オフィスから各教員に依頼に行く。第一次選考では教員による選抜、第二次選考では指導教員承諾書を取得した志願者のみ出願するようになっている。2016年度から研究生全員が対象の研究生用ゼミも設置し、指導の質の均一化を図っている。

【話題提供者②：鎌田美千子氏（宇都宮大学）】

宇都宮大学では、日本語教育を専門とする大学院生は、国際学研究科に所属している。国際学研究科博士前期課程は、1999年に設立され、国際社会研究専攻、国際文化研究専攻、国際交流研究専攻の3専攻からなり、入学定員は30名である。入試は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、国際交流・国際貢献活動経験者特別選抜などの多様な選抜方式で行われている。また、長期履修学生制度、教育訓練給付講座指定によって社会人も学びやすい環境を整えている。

履修に関しては、国際社会研究専攻及び国際文化研究専攻では、必修科目6単位、選択科目24単位以上を履修するのに対し、国際交流研究専攻では、必修科目6単位、国際学臨地研究8単位、選択科目16単位以上を履修することとなる。国際学臨地研究は、海外での調査研究を基本としたものである。いずれの専攻においても、指導教員が必要と認め、学生が履修したときに(1)本研究科の他専攻の授業科目、(2)他の大学院（外国の大学院を含む）、他の研究科及び学部の授業科目を修得単位数に算入することができる。発表者の授業科目では、論文作成及び臨地研究を視野に入れた授業展開、シラバス上の工夫、学部の授業科目を通じた基礎力の養成、を試みている。

<意見交換>

その後の意見交換では、参加大学から、日本語教育専門科目の提供が十分とは言えないケース、日本語教育が「日本」という専攻の枠組みにおかれ大学院組織の中での日本語教育の位置づ

けが課題であるケース、また日本語教育が英語教育と共同で専攻を作る案も出ている大学や、語学系が集まった研究科を設ける大学もあるとの報告があった。受入れ学生は留学生の受入れのほうが多い傾向にあるが、その場合、専門性、日本語力ともに不十分な学生も少なくなく、論文指導に苦慮しているケースも見られる。組織上の問題はこちらの働きかけで容易に変えていくのは困難であるが、そういう中で、日本語教育担当として研究生には専門的な基礎力をつけていくよう指導をし、修了後前期課程・後期課程に進学できるよう指南役となり、また大学院生受入れについては教員が志願者を選抜できるシステムを整えたり、カリキュラムや研究支援の科目に様々な工夫を加えているなど、他大学にも参考となる事例も出された。